



## MOA美術館全国児童作品展入賞

3月10日、大坪小学校で、6年の緒方彩月さんが『第36回MOA美術館全国児童作品展』において、絵画作品『真夜中の散歩』で銅賞を受賞したことを受け、入賞伝達式が行われました。

作品は、緒方さんが4年生のときに『黒猫』、5年生のときに『ひまわり』をモチーフにした作品を制作したときの経験を踏まえ、6年生では、自分の名前にちなみ『月』をモチーフに加え、さらに、宇宙科学館で見た万華鏡のイメージも取り入れ『黒猫』『ひまわり』『月』『万華鏡』の要素をひとつにまとめた、3年間の集大成として完成させたものです。



MOA美術館全国児童作品展で、銅賞を受賞した緒方さん（中央）

みんなで  
考えよう  
人権・同和問題  
No.282

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。  
これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

問合せ 生涯学習課人権・同和教育係 (HP ☎ 23-3186)

### 柏餅

「この葉っぱって食べられるの」という子どもの声に、柏餅の季節の訪れを感じます。柏餅は、あんを餅でくるみ、柏の葉で包んだ和菓子で『こどもの日』（端午の節句）に食べる習わしがあります。小豆あんのほかに味噌あんもあり、江戸時代は、柏の葉の表裏によって中身を見分けていたそうで、葉の表面はなめらかですが、裏面はザラザラしているので、目の不自由な人が感触で区別することができる利点もあったようで、江戸の人たちの生活の工夫があらわれています。

「目が不自由」と聞くと「見えにくいこと」が障がいだと思われかもしれませんが、それだけではありません。見えにくいことによって『情報や機会が得られないこと』が障がいなのです。

このことを踏まえると、障がいは、柏餅のように工夫次第で減らすことができます。身近なところではシャンプーの容器があります。目の不自由な人の「同じ形のリンスと間違えてしまう」という声を受けて、側面にギザギザした刻みが付けられました。リンスの容器には刻みがないので、触れることで区別ができます。この工夫は、目をつむって髪を洗うときにも便利です。日本語が読めない人にとっても、区別できることが自信につながっているかもしれません。

私たちが暮らすこの社会には、さまざまな生きづらさがあります。そのことに気づき、みんなで解決方法を考えることで、より多くの方が暮らしやすくなります。そのためには、当事者の意見が欠かせません。生きづらさを感じている人の声には、私たちの暮らしをよくするためのヒントが隠されているのです。

## 郷土の文化財

問合せ 生涯学習課文化財係  
(☎ 22-1262)

### 遺跡余話 古墳時代 伊万里湾の攻防

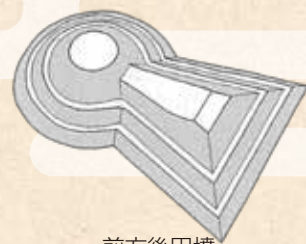
多くの人たちは『古墳』と聞いて、鍵穴のような形をした前方後円墳を思い浮かべると思います。古墳の形として一番多いのは円形の円墳で、それ以外にも四角い形の方墳ほうふんなどがあります。

古墳に埋葬されたのは、その地域の権力者（豪族）です。その地域の権力者が亡くなると古墳に埋葬され、次の権力者へと替わっていきます。これが何世代も続いたため、一般的に古墳は継続して造られ、また権力の強さで大きさや形も変わってきます。

旧唐津市内では、67基の古墳が確認されていて、各地域で古墳が継続して造られていることがわかります。

しかし、市内の古墳は、伊万里湾周辺のみで、わずか4基しか確認されていなくて、また築造も単発的で、継続性が見受けられません。

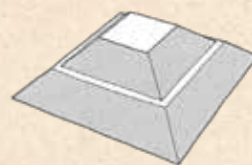
ところが、4基のうち2基は、非常に価値の高い副葬品が出土していて、さらに、この副葬品は、古墳時代に畿内を中心に最大の権力を持っていた、大和政権と関係するものでした。次回以降は、伊万里の古墳と伊万里湾をめぐる攻防について説明していく予定です。



前方後円墳



円墳



方墳